

校長室だより



令和4年2月4日
校長 齋藤 瑞穂

暦の上では春が来た！

今日は立春です。

今日、2月4日は今年の立春です。今年の、というのは、立春は現在、地球と太陽の位置関係から計算で割り出していて、毎年この日と決まっているわけではないからです。今年のように2月4日が圧倒的に多いのですが、昨年は2月3日、1984年には2月5日だったのですよ。

さて、立春は文字通り「春の始まり」とすると、前日（今年は3日）は「冬の終わり」で、季節の分かれ目だから「節分」です。

ん？季節の分かれ目なら「春と夏」や「夏と秋」「秋と冬」の分かれ目も節分ではないかって？そう、その通り！むかしはどの節分も大事にしていたのですが、だんだん新しい年を迎える冬から春の変わり目を特別なものとするようになったとか。学校では給食で節分メニューが出ましたし、お家で豆まきをした人もいたのではないですか？



むかしむかしから、季節の変わり目には邪気（＝よくない気。もののけや病気。）が入りやすいと考えられていました。邪気をはらって健康に過ごしたいという人々の願いから、邪気を象徴する「鬼」を追いはらう豆まきが、節分行事として定着したようです。この豆まき、地方によっていろいろ

ちがいがあがるようですから、調べてみるとおもしろそうです。

また、近ごろでは、節分に「恵方巻」を食べることもすっかりおなじみになりましたね。「その年の恵方（＝幸運をもたらすというよい方角）を向いて太巻きをだまって一本食べると、願い事が叶う」というものです。もともと東京の風習にはなかったけれど、太巻きはおいしいし、その太巻きを「もくもく」と「もぐもぐ」食べている姿はユーモラスで楽しいですね。しかし、なぜ太巻きなのか？なぜだまって食べるのか？どこで始まり、広まった風習なのか？――疑問が次々にわいてきませんか？興味をもった人は、これもぜひ調べて教えてください。



いま、校長室のテーブルの上には、紙で折られたトラとキツネがいます。

トラは十二支獣にちなんで5年の藤永先生が、キツネは同じく5年の秋鹿誓慈さんが折ってくれました。ふたつ並べてみると、まるで今にも戦い始めそうでしょう？

秋鹿さんは折り紙が得意で、このほかにもいろいろ動物を折れるそうですよ。1枚の紙から、こんないきいきした動物を生み出すなんて、すごいですね。



保護者の皆様

オミクロン株の感染拡大が止まず、今週は杉七小でも1クラス学級閉鎖をしました。とにかく学校で感染を広げないことを最優先し、急な措置となりましたが、該当学級の保護者の皆様には閉鎖期間中のオンライン学習に必要な学習用具の持ち帰りなど、迅速にご対応・ご協力いただき、心より感謝しております。おかげさまで、閉鎖明けには元気に登校する子供たちを迎えることができ、ホッと胸をなでおろしているところです。今後も、だれがいつ感染するかわからない状況はしばらく続きそうですが、学校はいつでも子供たちが安心して生活できる場所でありたいと願っています。引き続き、感染予防対策にご協力くださいますよう、重ねてお願い申し上げます